

ウイルス性肝硬変の再生結節内の“ルイスY抗原陰性巣”:新しい癌関連病巣か

著者	佐々木 素子
著者別表示	Sasaki Motoko
雑誌名	平成7(1995)年度 科学研究費補助金 奨励研究(A) 研究概要
巻	1995
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00065913



ウイルス性肝硬変の再生結節内の“レイスY抗原陰性巣”:新しい癌関連病巣か

Research Project

All

Project/Area Number

07770124

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Human pathology

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

佐々木 素子 金沢大学, 医学部, 助手 (70225895)

Project Period (FY)

1995

Project Status

Completed (Fiscal Year 1995)

Budget Amount *help

¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Fiscal Year 1995: ¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Keywords

レイスY抗原 / 肝細胞癌 / 肝硬変 / 境界病変 / p53蛋白 / Ki-67抗原

Research Abstract

1. 肝細胞癌,境界病変の背景肝における"レイスY抗原陰性巣":肝細胞癌30例,境界病変2例のホルマリン固定パラフィン包埋切片を用い,免疫組織化学的にレイスY抗原の発現を検討した.肝細胞癌の内10例と境界病変2例の背景肝に,"レイスY抗原陰性巣"の出現を認めた.この12例の背景肝はほぼ全例完成した肝硬変であった."レイスY抗原陰性巣"は,肝硬変偽小葉の中心部に位置し,多発する傾向にあった."レイスY抗原陰性巣"のサイズは種々であったが,いずれも結節状で膨張性の発育を示し,細胞密度はやや高い傾向にあった.

肝細胞癌,境界病変では,肝細胞癌13例(43%)に部分的なレイスY抗原陽性を認めるのみであった.針生検材料(肝細胞癌10例,境界病変14例)の検討でも,肝細胞癌の3例(30%)でのみ,部分的にレイスY抗原陽性を見るのみで,境界病変は全例レイスY抗原陰性であった.境界病変例の内,2例では,レイスY抗原陰性の境界病変部が圧排性に発育していた.

2."レイスY抗原陰性巣"におけるKi-67抗原,p53蛋白発現:"レイスY抗原陰性巣"の見られた肝細胞癌10例,境界病変2例で,免疫組織化学(マイクロウエーブ賦活)的に,増殖活性の指標であるKi-67抗原と,癌抑制遺伝子産物であるp53蛋白発現を検討した."レイスY抗原陰性巣"では,Ki-67抗原発現は周囲よりやや高い傾向にあり,増殖活性の増加が示唆された.p53蛋白発現は"レイスY抗原陰性巣"では全く見られなかった.尚,p53蛋白は,肝細胞癌では6例に陽性であったが,境界病変では全例陰性であった.

3.まとめ:今回の検討より,"レイスY抗原陰性巣"では,増殖活性が増加していること,p53蛋白発現はないことが明かとなった.この性質は境界病変と同様であり,癌関連病変あるいは前癌病変であると考えられた.

Report (1 results)

1995 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-07770124/>

Published: 1995-03-31 Modified: 2016-04-21